

ほんま、かいな!

～ゆすゆすモノたち のまき～

図書館カード、カバン、PC、歯磨きセット...! ?
定番の忘れ物から驚きの忘れ物までご紹介します。

気がついたらカウンターの上に置いてあったフォーク...。なぜ図書館に???

「フォーク」

大事な勉強道具や体育着を丸々忘れていく...。明日の学校は大丈夫??

「ランドセル&体育着」

良い点でも悪い点でも、ちゃんとお父さん、お母さんに見せましょうね!

「テスト」

とくに冬場に多い忘れ物第1位!! 帰る時は、寒くないのてしようか...

「手袋&帽子&靴下」

ガラガラからミニカーまで様々なおもちゃたちが置き去りに...

「おもちゃ」

まさか我が子を忘れるなんて...! すぐに気がついて戻って来られました。

「お子さん」

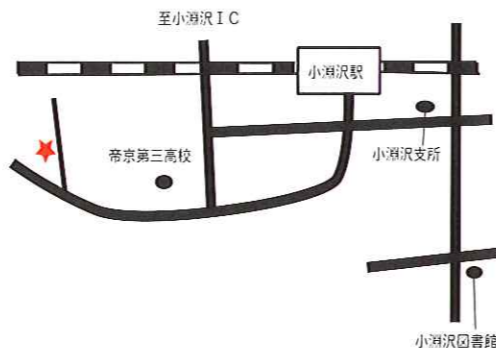
ほくと探訪 「北野天神社」

～北杜市の伝説とその舞台～

きたのてんじんじや

日本武尊(やまとたけるのみこと)、菅原道真公を合わせて祀る。学問の神様として崇拝されているため、春には参拝する人も多い。県指定文化財の鯛口や市指定文化財の道祖神や境内にある大きなトチの木、また、毎秋に行われる大和神楽も市指定文化財に指定されており、見どころも多い。

昔、北野天神社の神主の家に「がんまくさん」という力持ちの男がいた。ある時、神社の鳥居を建立することになり、二基の柱を建てたところで日暮れになってしまったため、笠石を翌日あげることにして解散した。翌朝、村人が集まってみると、すでに鳥居は見事に仕上がっていた。がんまくさんが一人で一晩のうちあげたものであるという。(『小淵沢町誌下巻』には力持ちになった理由も掲載)



参考資料: 『こぶちざわ昔ばなし』 小淵沢町教育委員会/編
『小淵沢町誌 下巻』 小淵沢町誌編集委員会/編



やまね便り

51号

特集 短編が好き。



あの人に会いたい

藪内正幸美術館 館長

やぶうち 藪内竜太さん

職場体験～図書館～Part 1

市内の中学2年生が図書館の仕事を体験!
感想を漢字一字で表してみよう!!

知 明野中学校 小泉 菜穂さん
体験場所: すたま森の図書館

Q1 この漢字を選んだ理由は?

たくさんを知ることができ、本についての知識が増えたから。

幸 明野中学校 興水 小鹿さん
体験場所: すたま森の図書館

Q1 この漢字を選んだ理由は?

好きな本に囲まれて、仕事にやりがいを感じた。幸せな気持ちになれたから。

楽 須玉中学校 岡本 孝之くん
体験場所: 金田一春彦記念図書館

Q1 この漢字を選んだ理由は?

仕事と聞くと難しいイメージがあったけど、とても楽しく職場体験ができた。

静 長坂中学校 矢崎 萌華さん
体験場所: ながさか図書館

Q1 この漢字を選んだ理由は?

改めて「静かだな」と感じた。集中して周りの音を聞くと本を探す人の足音などが聞こえた。

Q2 印象に残ったことは?

段ボールに入った本をきれいに拭いて、パソコンで調べたことがとても大変だった。終わったらとても達成感があった。

Q2 印象に残ったことは?

わからないことを質問したら、やさしく教えてくれた。

Q2 印象に残ったことは?

お客様に声をかけてもらい話ができなこと。図書館の本の場所の仕組みがわかった。

Q2 印象に残ったことは?

本を貸し出すとき、いつも見ていたので「おもしろそう!」と思っていたけど、結構大変だった。



次回もお楽しみに!

編集後記 今年の夏は雨が多く、自然災害が多発した年でした。北杜市も山林が多く、集中豪雨が起きれば土石流が発生してもおかしくありません。「忘災」とならないよう、気をつけていきたいものです。(ひ)

とびだせ! としょかんボランティア
～第6回 白州手作り絵本サークル～

司書のつぶやき 「ほんま、かいな!」

ほくとてくてく探訪
～北野天神社～

職場体験～図書館～Part 1

短編が好き。

時間がなくてもサクッと読める！長編小説にはない面白さ！

001 泣くことで次へ進めることだってある



読者から寄せられた心温まる実話をもとに書き下ろした短編集。悲しい時や感動した時に流す“涙”は「笑い」や「睡眠」よりもストレス解消に効果があり、「涙活」が話題となっている。そんな“涙”の効用に注目して書かれた「99のなみだ」シリーズ。心を癒したいときにおすすめ。

『99のなみだ』シリーズ リンダブックス編集 泰文堂

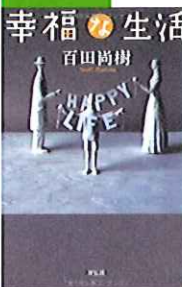
002 いろんな家庭があるからおもしろい



どこの家庭でもありそうな「家」にまつわる日常を描いた短編集。ネットオークションに夢中になって夫の物を勝手に売って妻、妻の家出をきっかけに自分好みのインテリアにこだわり男の城を作り上げる夫…。夫婦の数だけ物語があり、家族っていいなあと心がなごむはず。

『家日和』 奥田英朗 集英社

003 幸せな生活にもウラとオモテがある



現実にありそうな男女や夫婦の関係をテーマとして、それぞれミステリアスかつホラーなテイストで描かれている。ハラハラ、ドキドキ、スリリングな世界から一変し、切なさや笑いも感じさせる結末へと導かれていく。ブラックユーモアに満ちていて面白く、ミステリーの醍醐味を味わうことができる一冊。

『幸福な生活』 百田尚樹 祥伝社

004 小さな地球の中の壮大な物語



SF小説の先駆者といわれるエドモンド・ハミルトンの短編集。自宅の研究室に小さな宇宙を作ることになったフェッセンデンはそれを「実験的存在」と位置づけ、特殊な道具を使い、星を破壊し殺戮を繰り返す。一方、その行為を否定し、宇宙の発展を見守るべきだと声をあげる教授であるブラッドリー。果たして小さな宇宙と、ふたりの運命は・・・。

『フェッセンデンの宇宙』 エドモンド・ハミルトン 河出書房新社

005 想像もつかないラストに衝撃が走る！



卓抜なアイデアと、考えぬかれた構成、切れ味のいいスタイル。それらが一体となって、「短編小説の愉しみ」を存分に味わえる13話。おすすめは「来訪者」。出産時に世話をしてくれた産婦がなぜ退院後も付きまとう。ラスト数行に待ち受ける驚愕のオチに思わずゾッとなる。第81回直木賞受賞作品。

『ナポレオン狂』 阿刀田高 講談社

006 難解で美しいサリンジャーの世界



『ライ麦畑でつかまえて』で有名な著者が贈る、9つの物語。最初の物語「バナナフィッシュ日和」は会話が多くテンポよく話が進むが、強烈なラストシーンが待っている。すべてのストーリーに不気味な雰囲気があり、どこかが壊れた人たちが登場するが、不思議と読み返したくなる作品。

『ナイン・ストーリーズ』 J.D.サリンジャー ヴィレッジブックス

007 その先に明日があると信じて走れ！！



某スポーツメーカーのキャンペーンで3人の女流作家がマラソンをテーマに書き下ろし。
・男2人の高校陸上部での思い出と今とを対比して描く友情物語。
・異国の地で走ることを通して再生していく女性の物語。
・社長がいきなりNYのマラソン大会参加の社命を出す不条理な展開。さて、どれが誰の作品でしょう？

『シティ・マラソンス』 三浦しをん・あさのあつこ・近藤史恵 文藝春秋

008 読後に落ち着いた旅がしたくなる



各小説の舞台となる都市が物語に温度差を与え、人とのつながりをじんわりと考えさせる短編小説集。勢いをつけて一日で一冊を読もうとせず、秋の夜長に気になったタイトルから8篇を読み進めていくのが良いかもしれない。すっきりと洗練された文章は、短編小説ならではの味わい。

『きみのためのバラ』 池澤夏樹 新潮社

あの人に会いたい



1969年東京都生まれ。父は動物画家の荻内正幸(1940-2000)。父の死後、1万点以上の原画の管理を専属で行い、現在は美術館の館長を務める。各地で原画展や講演会を行っている。

荻内正幸美術館館長
やぶうち
藪内竜太さん

動物画家 荻内正幸について

父・荻内は子どもの頃から生き物が好きで、動物の絵を描くことが何よりも好きでした。

高校卒業間近、以前から文通していた動物学者の今泉吉典先生から、福音館書店で世界一詳しい哺乳類図鑑を作るのでその挿絵を描かないかと誘いを受け、福音館の社員となり、今泉先生が勤務されていた国立科学博物館に通い詰めて修行を積みました。先生から「動物は骨格がすべてだ。」と言われ、朝から晩まで骨格を模写し続けました。それこそ余白があれば、消しゴムであれ、手のひらであれ、動物を描き続けたようです。1日に何百枚も・・・。

そのおかげで、資料や写真の乏しい時代にあって骨格をイメージすることで動物のさまざまなポーズを描くことができるようになり、動物画家の第一人者としてさまざまなジャンルの本を手掛けていきました。

一途に好きなこと、夢中になれることがあり、一つ一つの作品に手間と時間をかけて生涯やり通したことは素直にすごいと思うし、うらやましくも思います。ただ、絵に関していえば、上手いけれども決して絵の天才ではなかったと思います。「好きこそものの上手なれ」を地でいったような人で、天才的に動物が好きだったから続けられたのです。どんなことでも失敗を繰り返しながら、手間や時間をかけなければ身につかないのでしょね。

美術館の設立について

荻内の死後、岩崎書店の当時の担当編集者から「絵を散逸させてはいけない」と強く言われ、絵の常設場所として編集者の出身地である白州町を紹介していただきました。白州町は自然の豊かな地として知られていますし、絵をきっかけとして生き物、環境、自然の話を伝えることができる申し分ない環境でした。地元の方々や旧白州町の協力もあり、美術館開館に至りました。また、隣にサントリーがあることにも縁を感じました。荻内は、サントリーの愛鳥週間の広告の仕事も長くやっていたからね。それも巡りあわせなのかな。

絵をとおして伝えたいこと

荻内の絵を見て、鳥の名前1つでも覚えてくれたり、動物園に行こうと思ってくれたら嬉しいですね。生き物を身近に感じ、興味を持つようになれば自ずと、環境・気候・食の問題・命の大切さに対しての意識が違ってきます。荻内の絵がそのきっかけになれば良いと思っています。何より、1つのことをやり通すことの大切さを伝えていきたいです。また、福音館書店の松居直さんは「子どもには本物を見せろ」という言い方をしています。子どもの目は誤魔化せません。荻内の絵本が今でも読み継がれていることは、荻内が「動物の本物の姿を見せることのできる絵描き」であったことの証なのかもしれません。



『どうぶつのおかあさん』 小森厚：文 荻内正幸：画 福音館書店
『くちばし どれが一番りっぱ？』 ビアンキ：文 荻内正幸：絵 福音館書店

市内図書館で同時原画展

2004年6月に白州町に美術館を開館して今年で10年。北杜市も市制10周年ということでお互いの10周年を記念して11月に市内7図書館で同時に荻内正幸原画展を開催します。ぜひ、お立ち寄り下さい。

荻内正幸原画展

11/1(土)～11/30(日)
会場：小淵沢図書館を除く市内7図書館
※小淵沢図書館は改修工事のため休館中

☆荻内正幸原画展関連イベント

「音楽と朗読のつどい」
荻内正幸原画展を記念して、荻内さんが父との思い出などを語ります。
日時：10/30(木)午後1時30分～
会場：明野総合会館

「ギャラリートーク」
原画展の絵を荻内さん自ら解説します。
日時：11/16(日)午後1時30分～
会場：金田一春彦記念図書館



とびだせ！ としよかんボランティア

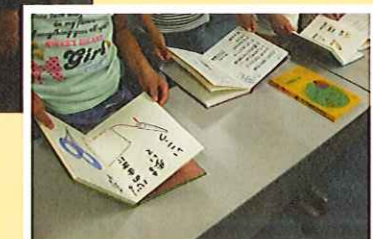
「白州手作り絵本サークル」は毎年夏休みにライブラリーはくしゅうで教室を開き、子どもたちに絵本の作り方を教えています。開催18年目になった今年もたくさんの参加があり、一人ひとりがオリジナルの絵本を完成させました。

すべての工程を子どもたちが体験できるよう、教室のメンバーが隣で丁寧にアドバイスをし、一緒に作ります。糊付けやカバーをかけるなどの難しい作業の時は大人も子どもも真剣な表情・・・。

どんな作品が出来上がるか、毎年楽しみに活動しています。



今年も力作ができました！



～北杜市図書館を拠点に活動中の図書館ボランティアを紹介～

第6回 白州手作り絵本サークル

北杜市図書館ではボランティアを募集しています。興味のある方は、お近くの図書館までお問い合わせください。